

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	21205
----------	-------

1. 開設大学	広島大学 総合科学部	開催方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面 (東広島キャンパス) <input checked="" type="checkbox"/> オンライン (<input checked="" type="checkbox"/> 同時・録画)			
2. 科目名	フィールド総合サイエンス；陸と海のSDGsに向けて					
	学問分野	番号	43, 32, 33	名称	環境、理学、農学	
3. 担当教員	小野寺 真一・横山 正 先進理工系科学研究科 山田 俊弘・竹田 一彦 統合生命科学研究科					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	令和 3年 8月 5日 (木) 10時 00分 ~ 14時 50分 (50分× 4回)					
個別開講日	1回目	8/5	2回目	/	3回目	/
	4回目	/	5回目	/	6回目	/
	7回目	/	8回目	/	9回目	/
	10回目	/	11回目	/	12回目	/
5. 募集定員	50人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>本講義では、持続可能社会の創造に向けて、陸から海に至る現場スケールでの観察の重要性を様々な視点から得られる情報をもとに掘り下げていき、瀬戸内海からアジアにおける未来の自然環境リスクを理解し、その軽減に向けての可能性を考えたいと思います。</p> <p>国連の提唱する17項目からなる「2030年までに達成すべき持続可能な開発目標 (SDGs)」では、特に、「海の豊かさを守る」(14番目)および「陸の豊かさを守る」(15番目)という目標の達成状況が現在極めて低く、大きな課題となっています。現場で起きている環境問題は、まさに多様な視点からの理解があつて初めて、その明確な原因や解決策が見えてきます。4回からなる講義をリレーすることで、陸から海への総合的なフィールドサイエンスについて理解を深めたいと思います。</p> <p>[第1回]:小野寺 (流域環境学) 流域環境・物質循環の視点から、流域スケールでの陸から海への環境リスクを瀬戸内海やアジアでの事例をもとに概説し、SGDsの重要性を考えていきます。</p> <p>[第2回]:横山 (地球科学) 地球科学の視点から、瀬戸内海地域に多く分布する花崗岩類を中心に岩石生成～風化・侵食の各過程を概説し、岩石の環境に及ぼす影響を考えていきます。</p> <p>[第3回]:山田 (森林生態学) 森林生態学の視点から、陸域における森林の多様性について瀬戸内海やアジアの事例をもとに概説し、どのように保全すべきかを考えていきます。</p> <p>[第4回]:竹田 (大気海洋化学) 大気海洋化学の視点から、大気から海洋における環境化学について瀬戸内海を中心に概説し、リスクの軽減に向けての可能性を考えていきます。</p> <p>*終了後、希望者のみ1時間のキャンパスネイチャーツアーも実施予定。</p> <p>会場:総合科学部事務棟3階第1会議室、集合:事務棟正面玄関9時50分</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
9. 開講条件※1 あり・ <input checked="" type="checkbox"/> ない	① 最少開講人数 ()人 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月9日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月10日(土)以降の開講科目は6月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと オンライン (同時・録画) の使用ソフトなど 参加者にはフィールドノートをプレゼントします。 オンラインの使用ソフトはZoomです。 ※対面またはオンライン (同時) の希望を推薦名簿の備考欄に記入ください。					
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ →広島大学→交通アクセス→東広島キャンパス 広島大学総合科学部 https://www.hiroshima-u.ac.jp/souka					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があつた場合は受講申込者へ通知します。
 コロナ禍の影響により、対面講座の不開講・休講またはオンライン (同時・録画) へ変更になる場合があります。